

第3章

doi: 10.18999/bulsea.64.103

中学2年生

若山晃治

(1) 目的

メインテーマに「生命と環境」、サブテーマに「みんなでつなぎ、地球を見つめる」を掲げ、動植物に触れたり、自然保護の取り組みについて学んだりする中で、自分たちを取り巻く自然環境や社会環境に興味関心を広げる。そして、気象や地形などの自然事象、地球温暖化や生態系の破壊などの環境問題、また科学技術の進歩がもたらす成果や課題といった、ユニバーサルな、またはグローバルな事柄を見据えた個人テーマを定める。個人テーマの探究を通し、課題を解決する方法や成果をまとめる方法を身に付けるとともに、持続可能な社会を作るために、自分たちに何ができるか、どのようなことが必要かを考えていく中で、サイエンスリテラシーを育てる。

(2) 実施方法

5月上旬に行われる林間学校を利用して、根の上高原や乗鞍、上高地の自然に触れるとともに、ネイチャーガイドの方と散策をしながら、上高地における動植物や気候、自然保護の取り組みについて学ぶ。また、グループで事前に質問を考えて、ガイドの方にインタビューを行うことで、生命や環境に関する問題に目を向けるとともに、実際に自分の目で見たり、現地の方に話を聞いたりする大切さを学ぶ。さらに、林間学校の体験をグループで分担してまとめる中で、仲間と協力して課題に取り組むための協調性を身に付ける。

6月以降は11月に行うフィールドワークに向け、個人テーマを定め、調べ学習を行う。また、調べ学習の発表を通し、お互いのテーマや発表内容の類似点や相違点をまとめ、生命・環境に対する多様な見方や考え方を学ぶ。

フィールドワークの実施を通し、アポイントの取り方や依頼状・お礼状の書き方、質問事項の考え方など、課題を探究するために必要な技能を身に付けるとともに、林間学校でのインタビュー同様、実際に体験したり、研究者や専門家の方から話を伺ったりする大切さを学ぶ。また、フィールドワークの内容を研究集録やポスターの形でまとめ、成果の伝え方を身に付ける。

(3) 内容

前期

月	日	曜	授業内容 (予定)	使用教室
4	11	水	オリエンテーション、「生命と環境」についてのKJ法	各教室
	13	金	ネイチャーガイドの方への質問作り	図書館
	19	木	上高地見所マップ作り	図書館
	26	木	高山市内班行動の計画	教室、PC室
5	7	月	根の上高原・乗鞍見所マップ作り	図書館、PS室
	9 ~ 11	水 ~ 金	林間学校 (根の上高原・上高地・乗鞍散策、高山市内班行動)	上高地
	17	木	動植物観察記録発表会	各教室
	24	木	上高地ポスター作り	各教室
	31	木	上高地ポスター発表練習	各教室
	6	11	月	上高地ポスターセッション
25		月	生命と環境調べ学習	PC室
28		木	マインドマップと関連図作り	各教室
7	5	木	個人テーマ決定に向けて	各教室
	19	木	夏休み課題について	第一総合教室
9	20	木	夏休み課題発表、リアルKJ法	交流ホール
	27	木	フィールドワークに向けて、依頼状の書き方	各教室
10	1	月	アポ取り、依頼状の作成、事前学習	各教室

後期

月	日	曜	授業内容（予定）	使用教室
10	11	木	アポ取り、依頼状の作成、事前学習	各教室
	18	木	アポ取り、依頼状作成、質問作成、事前学習	各教室
	25	木	フィールドワーク事前指導、テーマや質問に対する自分の意見をまとめよう	第一総合教室
11	1	木	お礼状の書き方、研究集録について	各教室
	8	木	フィールドワーク	各訪問先
	12	月	お礼状の作成、研究集録下書き	各教室
	15	木	お礼状の作成、研究集録下書き	各教室
	22	木	お礼状の作成、研究集録下書き	各教室
12	6	木	フィールドワーク発表会、研究集録清書	各教室
1	10	木	環境教育プログラム事前学習	交流ホール
	17	木	環境教育プログラム（東山動植物園）	東山動植物園
	24	木	総合人間科まとめの発表準備	各教室
	31	木	総合人間科まとめの発表準備	各教室
2	14	木	総合人間科まとめの発表	交流ホール
3	14	木	総合人間科を振り返って（アンケート）	各教室

積極的にグループ活動を取り入れ、協調性を高め、他者の意見を尊重する姿勢を身につけた。これらのグループ活動来年度以降の総合人間科への接続においても重要である。

各生徒に対する評価としては、①テーマ設定および調べ学習の内容、②フィールドワークの取り組み、③研究集録執筆・ポスター作成および発表について評価を行った。①テーマ設定および調べ学習の内容については、「生命と環境」というテーマを踏まえて、自ら問題意識をもち、テーマを設定し、また、そのテーマに沿った調べ学習が行うことができたかを判断した。②フィールドワークの取り組みについては、テーマに沿ったフィールドワーク先を探し、訪問先について調べ、アポイントや依頼状・お礼状、質問の作成やインタビューなど、一連の取り組みを自らの力で行うことができたか判断した。③研究集録執筆・ポスター作成および発表については、調べ学習やフィールドワークを通して学んだ内容を適切にまとめ、発表できたかを判断した。

その他、年度末にアンケートを実施し、自然環境や社会環境に対する興味関心が高まったか、課題を設定して探究する方法が身に付いたか、また、仲間との活動や発表を通じて生命・環境に対する多様な見方・考え方を学ぶことができたか、などを調査する予定である。

（文責 若山晃治）

（４）検証評価

昨年度、中学1年生ではメインテーマ「生き方を探る」、サブテーマ「興味と職業を探究する」というテーマのもと、自身の興味や周りの人との関わりの中から、探究する職業を設定し、調べ学習やフィールドワーク、研究集録の執筆やポスター発表などを行った。昨年度の活動で、今年度の学習を進めるための基礎的な力を学んできた。

今年度はそれらの力をより確かなものにしていくとともに、自分で生かそうとする自主性を育んだ。また、前年度は自身の興味ある職業が個人テーマであったのに対し、今年度はメインテーマ「生命と環境」に基づき、自ら問題意識をもって学習を進めていくため、個人テーマの設定やフィールドワーク先の選定を重要視した。同時に、調べ学習やフィールドワークなど個人で行う活動が中心ではあるが、個人では完結しないような普遍的でグローバルな課題に迫ることが1つの目標となるため、昨年度以上に周りの仲間と意見を交換し合い、協力して課題に取り組む大切さに気付かせるとともに、様々な視点を共有し合いながら学習を進めた。特に、林間学校や最後に行った総合人間科のまとめの発表は個人では無く、グループで準備・発表を行った。その他、様々な場面で